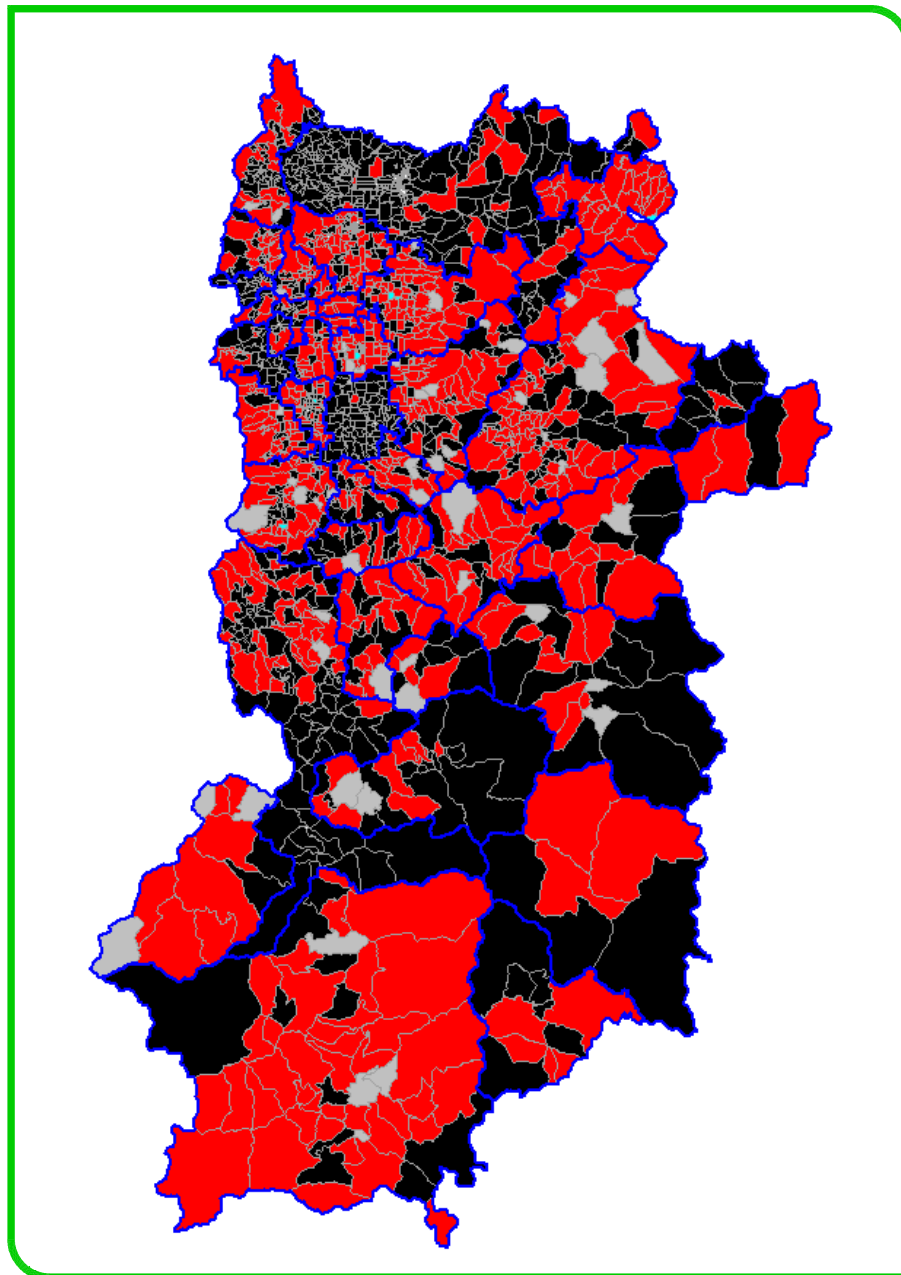


農業・林業集落アンケート調査によるカラスの生息状況・被害状況(平成28年度)

1. 平成28年度農業集落アンケート調査によるカラスの分布



左図は、平成28年度の農業集落アンケート調査による、カラスの分布である。

農業集落でカラスが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

カラスは都市環境、農耕地から、奥地森林まで各環境に適応して生息しているが、本設問の回答もそのようなカラスの生態を反映しており、ほぼ県内全域から「いる」との回答があった。

なお、ここでいう「カラス」は、ハシボソガラス及びハシブトガラスを想定している。

・平成28年度

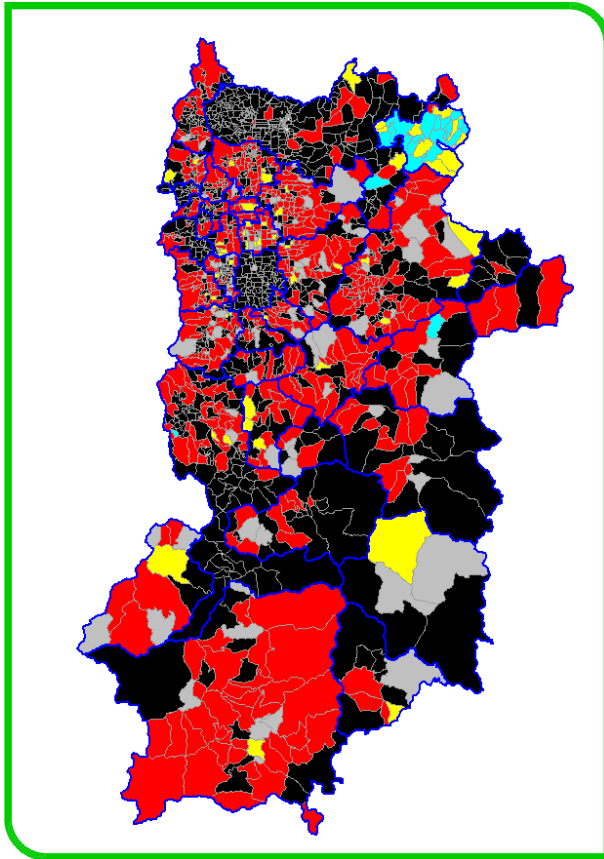
■ いる	679集落
■ いない	6集落
■ 回答無し	54集落
■ 回収無し	1069集落
計	1808集落

参考)平成27年度

■ いる	612集落
■ いない	10集落
■ 回答無し	67集落
■ 回収無し	1119集落
計	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. カラスの農地・集落周辺への出没(平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、カラスの農地・集落周辺への出没状況である。

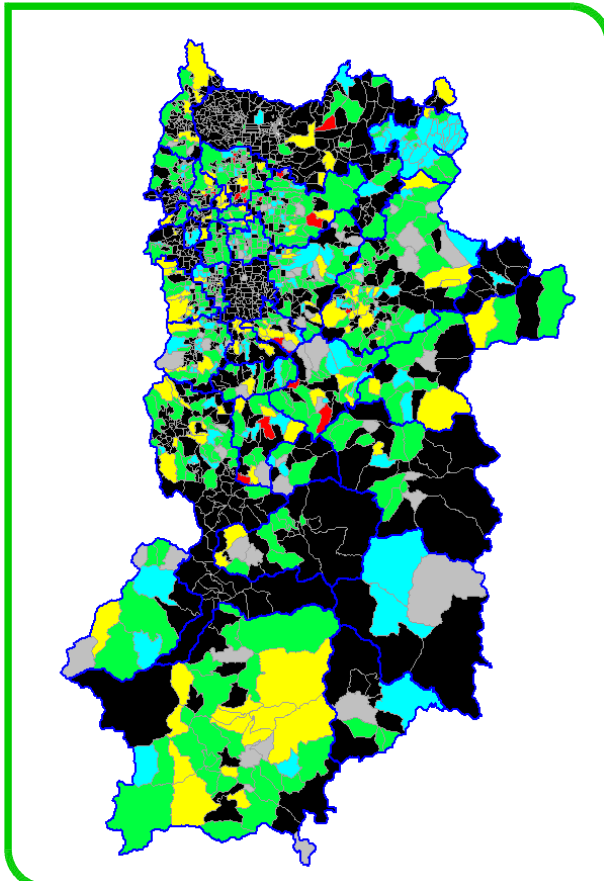
カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」との回答は、県内全域の回答のあった集落の約88%から回答があった。一部地域であまり見ないが多いが、1村のみアンケート様式が異なったため、実際には他地域と変わらないと考えられる。

・平成28年度	
よく見る	562集落(87.5%)
たまに見る	58集落(9.0%)
あまり見ない	22集落(3.4%)
回答数	642集落

・参考)平成27年度	
よく見る	518集落(90.4%)
たまに見る	52集落(9.1%)
あまり見ない	3集落(0.5%)
回答数	573集落

3. カラスの農業被害の大きさ(平成28年度)



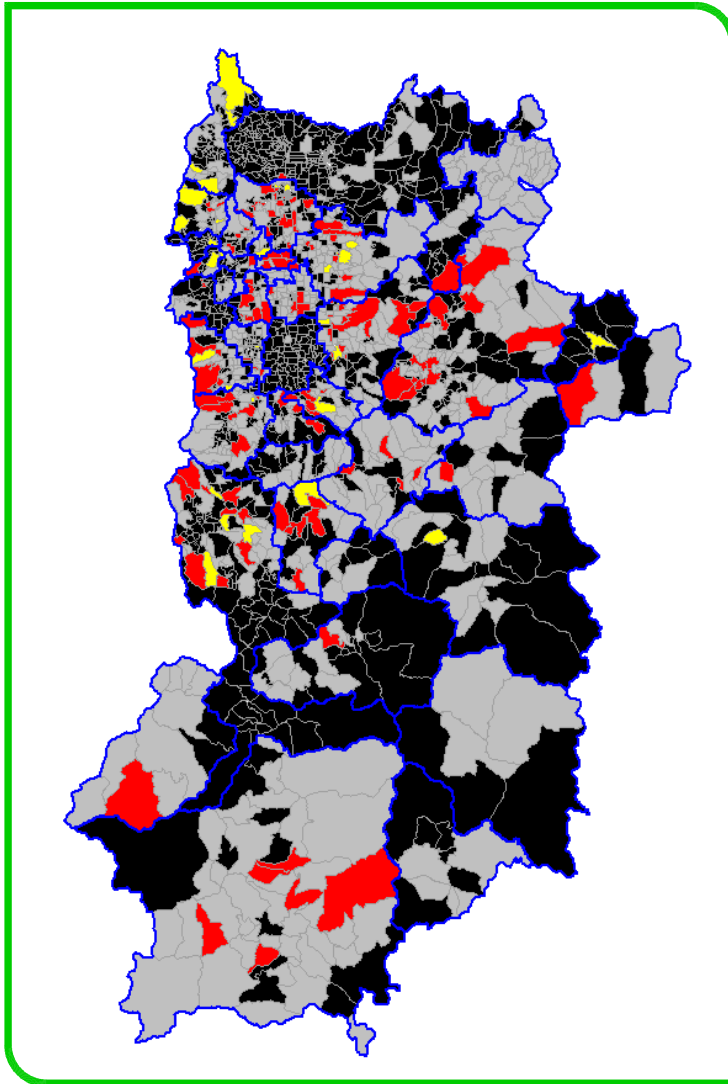
左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、カラスによる農業被害の大きさの意識調査の結果である。カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

カラスの農業被害は、「軽微」なものが約61%と最も多かった。「大きい」と「深刻」を併せたものは約17%であるが、県内に広くみられた。状況によっては被害は大きくなると考えられる。カラスは鳥類の中でも学習能力が高いため、被害対策を実施していても、大きな被害が発生している場合がある。

・平成28年度	
ほとんど無い	129集落(19.4%)
軽微	406集落(61.1%)
大きい(生産量の30%未満)	114集落(17.2%)
深刻(生産量の30%以上)	15集落(0.2%)
回答数	664集落

・参考)平成27年度	
ほとんど無い	93集落(15.6%)
軽微	357集落(60.0%)
大きい(生産量の30%未満)	122集落(20.5%)
深刻(生産量の30%以上)	23集落(3.9%)
回答数	595集落

4. カラスの衛生被害(平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、カラスによる衛生被害の意識調査の結果である。

衛生被害は、県内全域から回答があるが、県北部・中部で多い傾向にある。

・平成28年度

- 通年で糞被害等がある 127集落
- 秋～冬に糞被害などがある 30集落

・参考)平成27年度

- 通年で糞被害等がある 135集落
- 秋～冬に糞被害などがある 39集落

・参考)平成26年度

- 通年で糞被害等がある 136集落
- 秋～冬に糞被害などがある 37集落

・参考)平成25年度

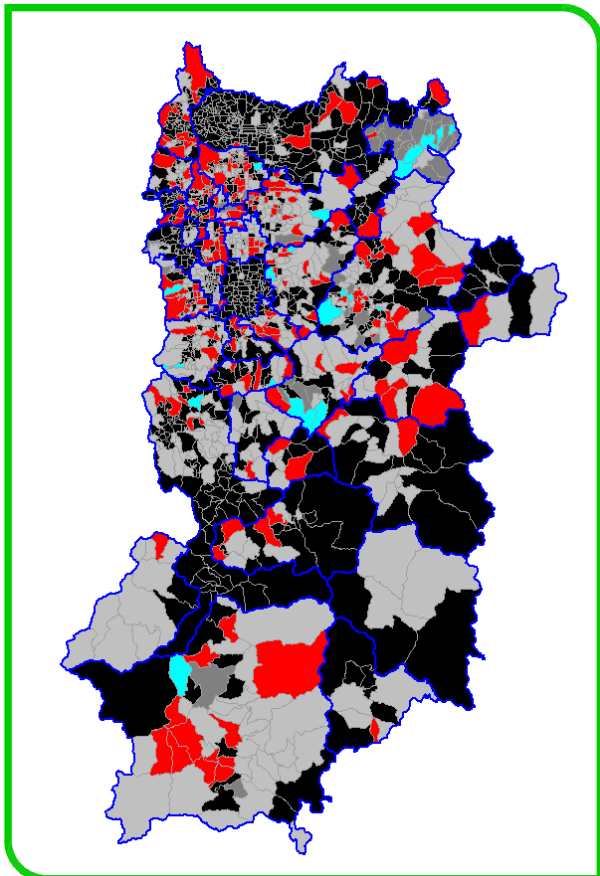
- 通年で糞被害等がある 88集落
- 秋～冬に糞被害などがある 32集落

これまでの調査から、衛生被害の発生要因は、各家庭から排出されるのゴミの捨て方、ゴミの集積方法の問題が記載されている。これらはゴミ袋を容易に破られないネットで覆う等簡単な処理で被害を防止することが可能であるため、住民に普及啓発し、改善することが重要である。

。また、大規模なゴミ処理施設、食品関係の会社・市場の残渣処理方法についても厳しい意見も寄せられている。これらの事業者はゴミ、残渣処理方法の改善を図るべきである。

その他、ねぐらが被害発生地の近くにある、人間を怖がらなくなった等の意見があった。

5. カラスの被害対策 防鳥ネットの効果(農地・平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、カラスの農業被害対策の、防鳥ネットの設置による効果の意識調査の結果である。

カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

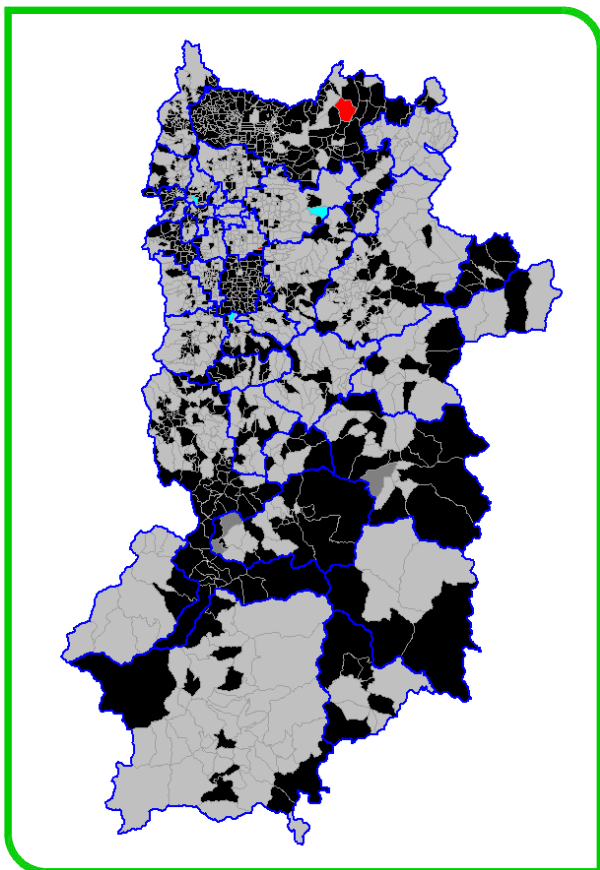
防鳥ネットは農業被害対策として、効果が非常に高いことがわかる。しかし、防鳥ネットが設置できない場所もあるため、その場合はその他の効果的な手法により被害対策を実施する必要がある。

・平成28年度	
■効果があった	207集落(91.6%)
■効果がなかった	19集落(8.4%)
回答数	226集落

参考)平成27年度	
■効果があった	222集落(92.1%)
■効果がなかった	19集落(7.9%)
回答数	241集落

これまでの調査では、防鳥ネットのほかに、テグス・防鳥糸・ナイロン紐などを張り巡らすこと、威嚇射撃、爆音機、爆竹などでの対策があった。効果はあったり、なかったりとなっていた。

6. カラスの被害対策 有害捕獲の効果(農地・平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

本設問の回答数は、5集落のみであった。実際には有害捕獲は北・中部地域を中心に実施されているが、実施しているという認識そのものが低いと考えられる。

・平成28年度	
■効果があった	2集落
■効果がなかった	3集落
回答数	5集落

参考)平成27年度	
■効果があった	3集落
■効果がなかった	1集落
回答数	4集落